

令和3年度事業報告 及び一般会計歳入歳出決算



茨城県支部

1. 令和3年度事業報告

(1) 災害救護事業 災害救護体制の強化

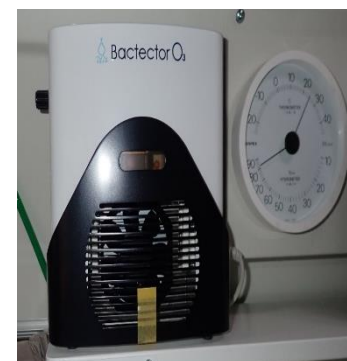
災害時に迅速かつ的確に救護活動を展開するため、救護員等の訓練・研修を行った。また、地区区分区に対し、毛布などの救援物資の配布と救援車両などの資機材の配備を行った。

【主な訓練・研修実施状況】

実施日	訓練・研修等名	開催地
5月21日	支部災害対策本部運営訓練	水戸市
7月9日～7月10日	第一回常備救護班等災害救護訓練	水戸市
11月20日	第2ブロック支部総合訓練	栃木県
11月29日～12月1日	こころのケア指導者養成研修会	東京都
12月15日	百里飛行場航空機事故対処部分訓練(茨城空港)	小美玉市
1月26日	第2ブロック被災地支部先遣要員訓練(学科訓練)	千葉県
2月21日	第二回常備救護班等災害救護訓練(学科訓練)	水戸市
3月4日	支部災害対策本部運営訓練	水戸市
3月13日	日赤災害医療コーディネートフォローアップ研修会	東京都
5月25日・7月20日 9月21日・11月16日 2月15日・3月15日	常備救護班主事フォローアップ研修	古河市



飛沫感染防止
パーティション



救急車除染システム

(感染対策用資機材を整備)

【地区区分区への救護資機材の配布状況】

品目	配布数	品目	配布数
毛布	70枚	ブルーシート	30枚
緊急セット	56組	布団セット	99組
タオルケット	450枚	安眠セット	65組

配備品目	配備数	備考
① 救援車両	5台	
軽ワンボックス	3台	常陸大宮市、河内町、古河市
普通車バン	2台	東海村、美浦村
② 簡易型テント	4張	鉾田市(2張)、下妻市、常陸太田市
③ 災害物資用倉庫	1棟	潮来市

(2) 救急法等講習の実施

新型コロナウイルス感染拡大時にあつては、自宅や職場等で受講可能なオンライン講習を拡充し、講習普及に努めた。



オンライン講習を指導するボランティア



自宅でオンライン講習を受講する親子

【講習の実施状況】

種 別	基礎講習				短期講習 (集合型)				短期講習 (オンライン型)				合計			
	回数		受講者数		回数		受講者数		回数		受講者数		回数		受講者数	
	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度
救 急 法	11		300		74	78	3,062	2,155	29	5	1,673	202	114	83	5,035	2,357
水上安全法					9	0	161	0					9	0	161	0
健康生活 支援講習					7	4	179	60					7	4	179	60
幼児安全法					13	14	175	186	12	3	654	137	25	17	829	323
合 計	11		300		103	96	3,577	2,401	41	8	2,327	339	155	104	6,204	2,740

(3) 赤十字奉仕団の活動

- ・ 防災研修など地域の防災力向上を図る活動を実施した。
- ・ 救急法等の普及を通じて事業の推進活動を実施した。
- ・ 赤十字会員増強、献血にかかる推進活動を実施した。
- ・ 海外たすけあい、各種義援金の募金活動を実施した。

【奉仕団数及び奉仕団員数】

地域赤十字奉仕団	42団	6,844人
特別赤十字奉仕団*	11団	837人

*アマチュア無線奉仕団、看護奉仕団、学生奉仕団 など



防災研修で炊き出しを行う団員
(常陸大宮市赤十字奉仕団)

(4) 青少年赤十字の活動

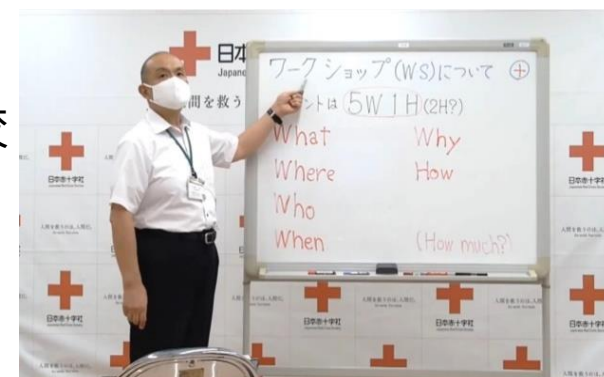
- ・ 活動活性化の一助となるよう、加盟校や、新規加盟校に対して活動助成を実施した。

(加盟校 10校、新規加盟校 8校)

- ・ 中・高校生メンバーに対し、防災やSDGs等に関するオンラインセミナーを実施した。(延14校261人参加)

【青少年赤十字の加盟状況】

幼稚園 保育所等	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	計
8園	161校	96校	2校	73校	3校	2校	345校



オンラインセミナーを行う指導者

(5) 赤十字活動の広報

日本赤十字社の使命や活動が多くの人から共感を得られるよう分かりやすく伝えるなど、積極的な広報の展開に努めた。

- ・ 広報紙等の配布

赤十字の活動を支援する会員の皆さまに対して、広報紙「日赤茨城」（夏号：603,000部、冬号：92,000部）や「赤十字NEWS」（毎月1,765部）

などを送付し、活動資金の使いみちや事業報告を行い、赤十字活動への理解促進を努めました。

- ・ メディアに対し、当支部の防災事業への取り組みや、NHK海外たすけあい募金及び海外救援金などについて積極的に情報提供し、新聞などに取り上げられた。

プレスリリース回数	メディアによる発信・報道			
	テレビ	新 聞	タウン誌	計
3 回	2 回	1 5 回	2 0 回	3 7 回

(6) 活動資金の確保 ①取組と結果

取組

- ・地区分区との連携、既存会員との関係強化、新規会員の開拓、遺贈寄付の受付推進を4つの柱として、多様な資金確保策を展開した。

結果

- ・**3億8,400万円**を確保。【目標額（3億7,500万円）**達成率102%**】

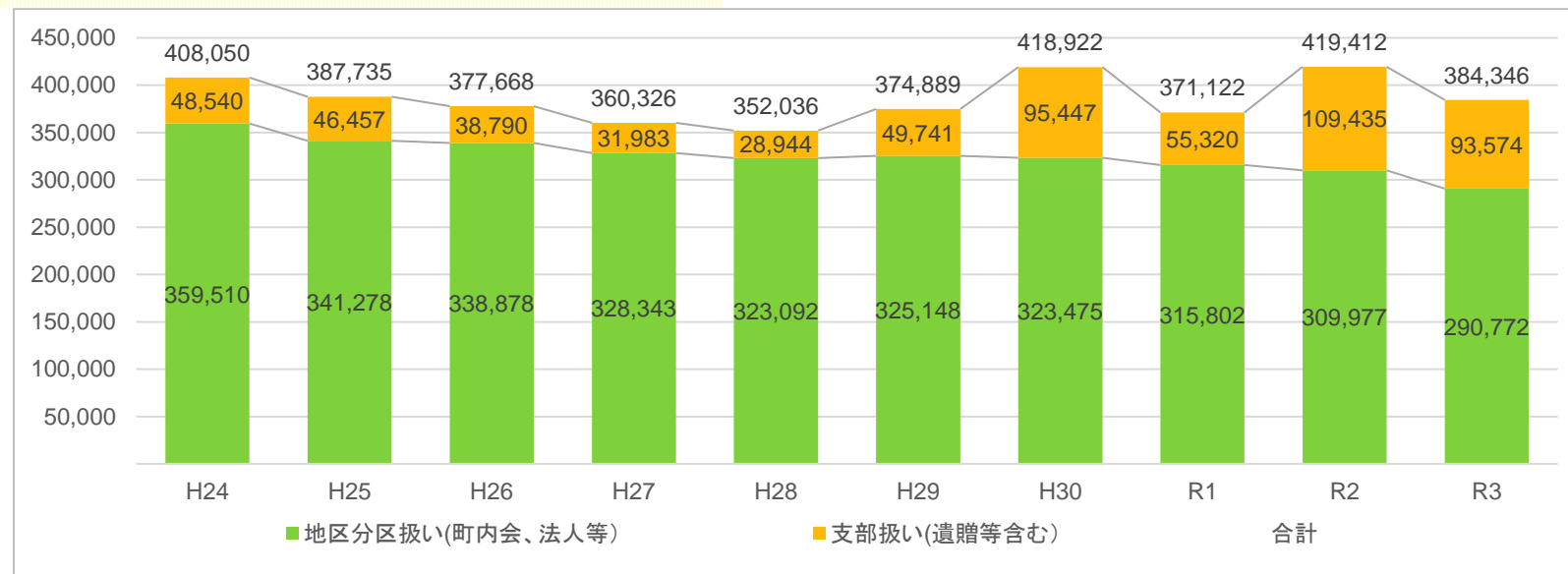
〈 活動資金確保プロジェクト 〉

柱	主な取り組み
地区分区との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会等を通じた各世帯への協力依頼 ・コロナ禍対策として地元企業等への振込用紙送付による協力依頼
既存会員との関係強化	<ul style="list-style-type: none"> ・支部職員担当制による会員への定期挨拶や個別依頼等 ・クレジットカード決済や口座振替による活動資金協力の推進 ・支援継続及び支援拡大を目的とした会員向け会報誌の配布〈新規取組〉
新規会員の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・義援金や海外救援金等の寄付者へのダイレクトメールによる依頼 ・優良企業に対するダイレクトメールによる依頼〈新規取組〉 ・個人の祝事記念や法人・団体の周年記念での協力
遺贈寄付の受付推進	<ul style="list-style-type: none"> ・筑波銀行と遺贈寄付受付に係る遺言信託業務の協定締結〈新規取組〉 ・支部広報紙等を通じた遺贈寄付に係る広報活動の実施

(6) 活動資金の確保 ②成果と現況及び課題

当支部の活動資金実績額の推移

(単位：千円)



成果

活動資金総額は、平成28年度に約3億5,200万円まで減少したが、平成29年度から「(※)活動資金確保プロジェクト」を開始したことにより回復基調にある。
(※)安定的な事業継続に向けた財源確保のため、支部事務局長をリーダーとし、多様な活動資金募集を展開

現況
及び
課題

活動資金の基盤となる「町内会(世帯)からの活動資金」は、下げ止まりに歯止めがかからない。町内会経由の活動資金募集は重視しつつも、減少額を補完するため、引き続き多様な募集方法の検討に努める。

年度	活動資金総額 (単位：千円)	平成28年度を 100とした指標
平成28年度	352,036	—
平成29年度	374,889	106
平成30年度	418,922	119
令和元年度	371,122	105
令和2年度	419,412	119
令和3年度	384,346	109

2. 令和3年度一般会計歳入歳出決算

(単位：千円)

科 目	R3決算	R2決算	増減
歳 入	521,948	538,410	△16,462
歳 出	418,075	432,123	△14,048
差 引 (翌年度繰越額)	103,873	106,287	△2,414

(1) 歳入決算

(単位：千円)

科 目	R3決算	R2決算	増減	主な収入	主な増減理由
社 資 収 入	384,519	419,412	△34,893	一般社資 (個人からの寄付) 法人社資 (法人および団体からの寄付)	・ 支部扱社資 93,574(△15,861) ・ 地区分区扱社資 290,772 (△19,205)
委託金等収入	0	2,983	△2,983	災害等補償収入	・ 災害等補償収入 0 (△2,983)
雑 収 入 等	31,142	5,298	25,844	本社交付金 他会計からの資金繰入金 講習会等負担金	・ 本社交付金収入 3,569 ・ 特別退職金積立留保金繰入金収入 19,984
前年度繰越金	106,287	110,717	△4,430	前年度繰越金	
合 計	521,948	538,410	△16,462		

(2) 歳出決算

(単位：千円)

科 目	R3決算	R2決算	増減	主な使途	主な増減理由
災害救護事業費	33,318	36,027	△2,709	災害対応訓練 被災地への救護員派遣 災害対応における救援物資整備 被災者への義援金の送付	・ 救援物資整備費の減 △787 ・ 被災地への救護員派遣の減 △1,434
社会活動費	36,761	34,197	2,564	救急法などの講習、 奉仕団・青少年赤十字活動の普及	・ 加盟校助成金制度の新設に伴う増
国際活動費	1,173	1,000	173	海外支援・開発協力活動 バングラデシュ保健医療支援事業 インドネシアコミュニティ防災事業	
指定事業地方振興費 (個人住民税)	10,845	11,914	△1,069	地区区分への救護資機材整備 (救援車両5台、倉庫1棟、テント4張) 災害対応における救護資機材整備	・ 救護資機材計画配備数の減
地区区分交付金	48,840	53,608	△4,768	地区区分における赤十字活動費用に 充てるため地区区分扱いの社資収入 の一定割合を交付するもの	・ 地区区分扱い社資収入減に伴う減
社業振興費	40,740	45,343	△4,603	活動資金募集、広報活動	・ 全国社員管理システム導入費の減 △2,809 ・ 広報活動費の減 △1,071
基盤整備交付金	8,844	6,099	2,745	病院等赤十字施設の整備を目的とし た寄付金を交付するもの	・ 施設整備使途指定寄付金の増
積立金	99,878	106,895	△7,017	[災害積立] 災害発生時等、緊急の経費 [施設積立] 建物等の減価償却分	・ 災害等資金積立金の減 △22,015 ・ 施設整備準備資金積立金の増 +15,000
総務管理費	67,794	61,808	5,986	事務管理等	・ 茨城県実務研修員の派遣に伴う費用 (人件費)の増
資産取得 及び資産管理費	14,773	15,319	△546	支部庁舎の維持管理	・ 経年劣化に係る修繕費の増 +1,216 ・ 清掃業務委託契約変更に伴う減 △1,343
本社送納金	55,109	59,913	△4,804	全国的な赤十字活動	・ 社資収入減に伴う減
合 計	418,075	432,123	△14,048		8

令和3年度事業報告 及び医療特別会計歳入歳出決算



水戸赤十字病院

1. 令和3年度事業報告

(1) 病院の特徴

①病床数 許可病床：442床 実働病床：388床

②診療科 24診療科

③特 徴

- ・ 基幹災害拠点病院
- ・ 第二次救急医療施設
- ・ 茨城県がん診療指定病院
- ・ エイズ診療拠点病院
- ・ 基幹型臨床研修病院
- ・ 緩和ケア病棟
- ・ 人間ドック施設 等
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 地域周産期母子医療センター
- ・ 地域リハビリテーション広域支援センター
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ 病院機能評価認定施設
- ・ 地域包括ケア病棟

④職員数 ： 655人（非常勤・嘱託職員含む）

医師：76人 看護師：344人 医療技術者：92人 その他：143人

(2) 重要施策

①医師の確保

- ・医療提供体制の維持・充実に図るため、専門の人材紹介会社を活用したリクルート活動とともに、日赤本社と一体となり、大学への働きかけを強化するなど医師確保に全力を注いだ。
- ・令和3年度は医師5名（消化器内科、循環器内科、形成外科、眼科、麻酔科）の採用が内定した。

②新型コロナウイルス感染症対策

- ・最大85床の専用病床を確保し、新型コロナ患者を受け入れるとともに、一般市民向けワクチンの接種体制を整備した。

③DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・院内Wi-Fiを整備し、給与明細のweb化等、デジタル化を推進した。
- ・令和3年度は新たにシステム担当者を1名採用した。

④地域医療構想への対応

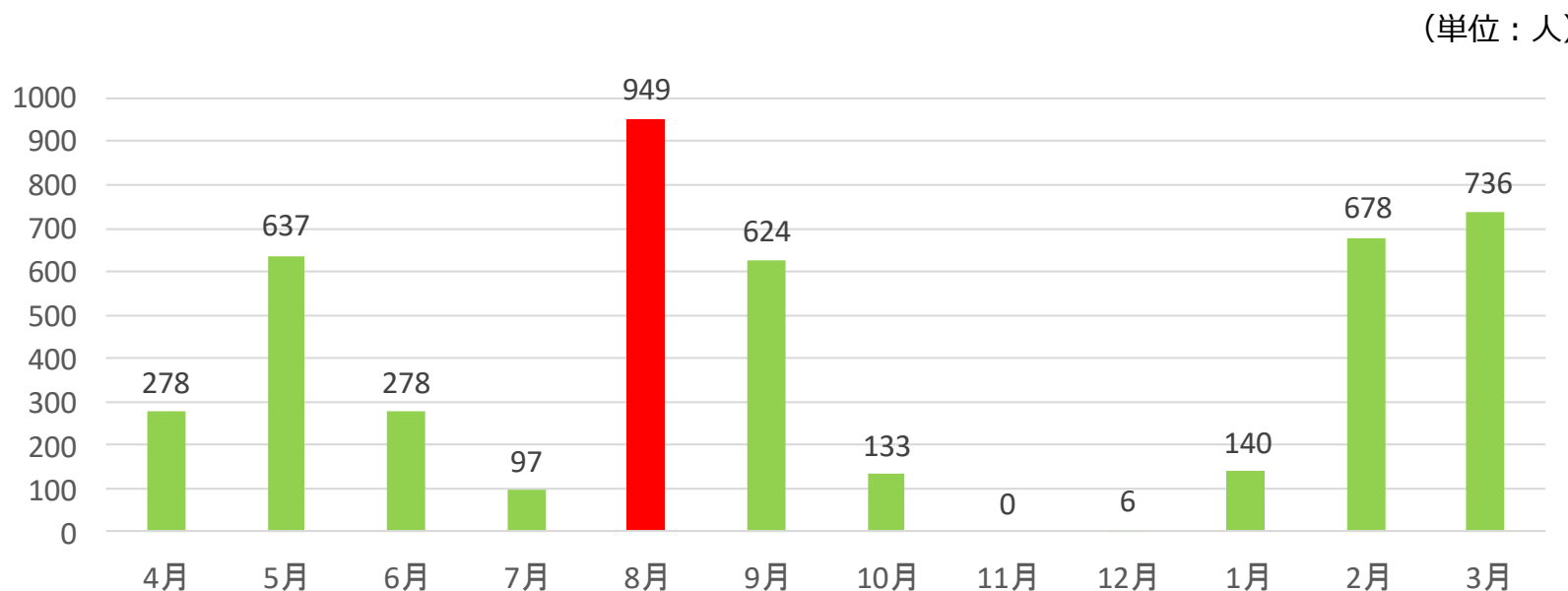
- ・不足する高度急性期医療を担うべく病棟再編に着手、「HCU（ハイケアユニット）」の新設を決めた。

(3) 新型コロナウイルス感染症対応状況

①入院患者受入

新型コロナウイルス感染症患者対応のため、重点医療機関として専用病床を整備し、多くの陽性患者を受け入れた。

〔令和3年度 入院状況〕



(4) 事業報告の概要

①入院

①病床稼働率

(単位：%)

3年度決算	52.1
3年度計画	64.4
2年度実績	62.7

② 1 日平均患者数

(単位：人)

3年度決算	202.1
3年度計画	250.0
2年度実績	214.4

③ 1 人1日当り患者収益

(単位：円)

3年度決算	61,949
3年度計画	58,400
2年度実績	57,364

②外来

① 1 日平均患者数

(単位：人)

3年度決算	760
3年度計画	780
2年度実績	742

② 1 人 1 日当り患者収益

(単位：円)

3年度決算	19,422
3年度計画	19,400
2年度実績	19,022

2. 令和3年度歳入歳出決算の概要

・収益的収入

(単位：千円)

	3年度決算	2年度決算	備考（主な内容等）
入院診療収益	4,568,828	4,489,975	新型コロナ対応 [最大85床確保、延4,556人が入院]
室料差額収益	109,128	119,764	個室料収入
外来診療収益	3,574,083	3,416,167	新型コロナ対応 [延2,995人にPCR検査を実施]
保健予防活動収益	183,733	158,038	人間ドック収入等（宿泊ドックは休止中）
その他医業収益	57,777	56,923	診断書料収入等
医業外収益等	2,912,092	2,648,975	補助金収入等 [病床確保料収入約25億円]
合 計	11,405,641	10,889,842	

2. 令和3年度歳入歳出決算の概要

・収益的支出

(単位：千円)

	3年度決算	2年度決算	備考（主な内容等）
材料費	2,602,124	2,551,270	医薬品、診療材料、給食材料費等
給与費	4,892,625	5,060,598	医師、看護師等人件費
委託費	494,369	454,977	清掃、警備、保守、医事業務等
設備関係費	845,275	864,331	器機賃借料、修繕費等 [減価償却費約5.4億円]
研究研修費	16,064	10,646	図書費、旅費交通費等
経費	370,124	348,217	水道光熱費、福利厚生費等
医業外費用等	228,121	225,027	看護師等委託養成費、診療費減免等
合 計	9,448,702	9,515,066	

3. 令和3年度歳入歳出決算の総括

・ 収入支出差引額

(単位：千円)

	3年度決算	2年度決算	備考（主な内容等）
収益的収入	11,405,641	10,889,842	病床確保料約25億円
収益的支出	9,448,702	9,515,066	給与費、設備関係費等の減少
収入支出差引額	1,956,939	1,374,776	2年連続黒字決算

- (1) 収入では、入院患者数が減少したものの、診療単価の伸びや新型コロナウイルス感染症関連の補助金を獲得したことにより収入増となった。
- (2) 支出では、給与費、設備関係費等の減少により支出減となった。
- (3) 支出を大きく上回る収入により、収支差引額は、昨年につき19億5,693万円の黒字決算となった。

4.補助金一覧

(1) 運営費補助金

補助元	新型コロナ以外	新型コロナ関連	備考（ｺﾒ関連）
国庫	6,364,000円	15,071,828円	医療従事者人件費
都道府県	60,264,420円	2,556,039,150円	病床確保料 @74,000円/日
市町村	59,820,000円	1,000,000円	ワクチン接種費用
補助金合計	126,448,420円	2,572,110,978円	

(2) 施設設備補助金

補助元	新型コロナ以外	新型コロナ関連	備考（ｺﾒ関連）
都道府県	4,477,000円	77,451,970円	CT、人工呼吸器等
補助金合計	4,477,000円	77,451,970円	

令和3年度事業報告 及び医療特別会計歳入歳出決算



古河赤十字病院

1. 令和3年度事業報告

(1) 病院の特徴

①病床数 許可病床：200床 実働病床：200床

②診療科 26診療科

③特 徴

- ・ 地域災害拠点病院
- ・ 第二次救急医療施設
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ 病院機能評価認定施設
- ・ 自治医科大学地域臨床教育センター
- ・ 在宅医療参入促進連絡医療機関
- ・ 救急救命士実習病院
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 病院群輪番制病院
- ・ 小児二次救急輪番病院
- ・ 地域包括ケア病棟(50床)
- ・ 難病医療協力病院 他

④職員数：392人（非常勤・嘱託職員含む）

医師：85人、看護師：194人、医療技術者：66人

その他：47人

(2) 重要施策

①新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 県西地域の重点医療機関として茨城県の要請に応じ、延人数で入院3,818名、外来2,540名の受け入れを行った。
- ・ 茨城県のクラスター対策班として、感染対策の専門医や看護師を派遣し、感染拡大防止の指導や対策を行った。（計19回派遣）
- ・ 自施設で市民や医療従事者等 約24,970名にワクチン接種を実施した。

②災害対策

- ・ 多くの河川が流れる地域に立地するため、水害対策として高圧引き込み線や燃料ポンプ配電盤の高所化、防水壁の設置を行い、併せて水害時のBCPを作成し、水害対応訓練を実施した。

③働き方改革に伴う業務負担軽減対策

- ・ 外来における医師事務作業補助者の増員や特定看護師、技術職の活用による医師業務の負担軽減を図った。また、部門においても業務効率向上を図り、働き方改革における時間外労働時間の削減（月80時間・年間960時間以内）を目標として推進した。

(2) 重要施策

④ デジタル化の推進

- ・ 給与明細や出張申請のweb化による事務作業の軽減を図った。
- ・ 外部との会議や院内の患者指導にweb会議システムを積極的に利用することにより、時間の節約や出張費の削減を図り、業務効率化に繋がった。
- ・ 院内の多くのサーバーを一つのサーバーにまとめて運用する仮想サーバー技術の導入により、将来的なシステムの導入コストを削減し、システム導入の際にも迅速に稼働が開始できるようにした。
- ・ 通知文書や閲覧資料などを可能な限りメール配信としてペーパーレス業務を進めることで、閲覧資料の印刷の手間の削減やコピー代、用紙代の費用削減を図った。

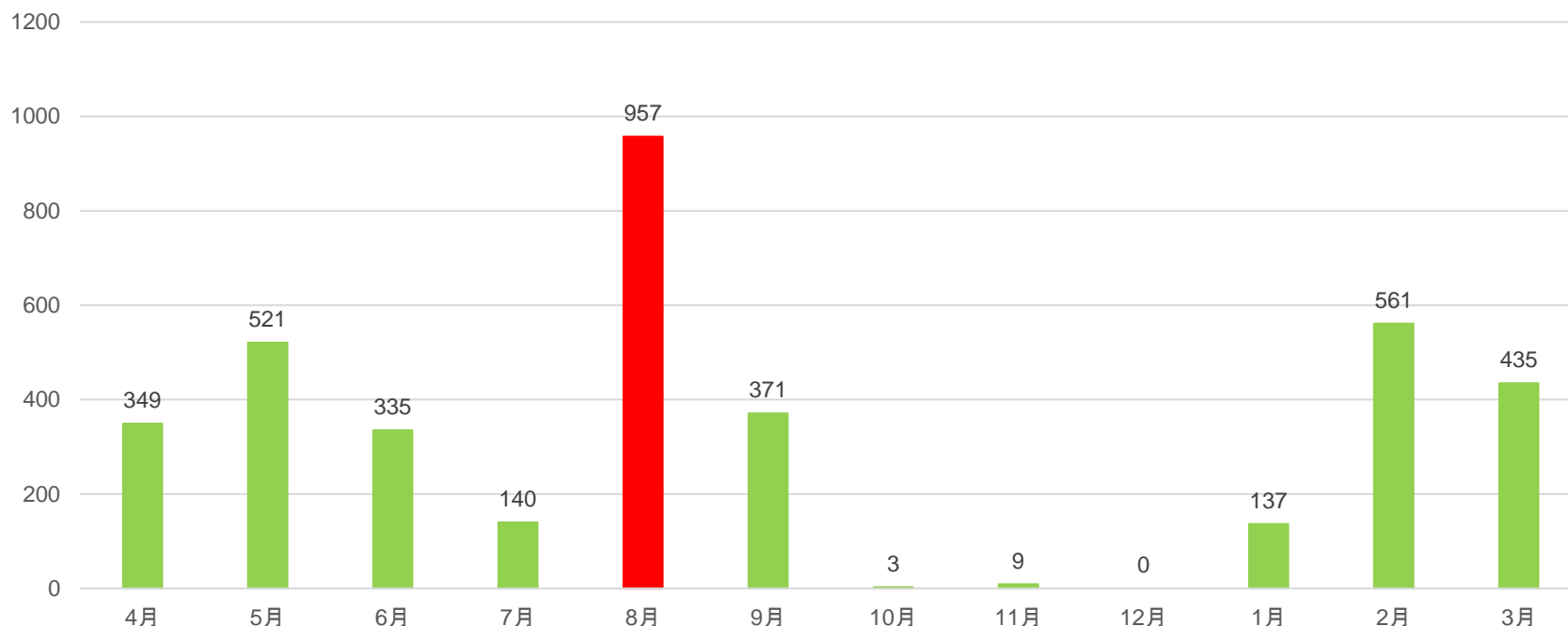
(3) 新型コロナウイルス感染症対応状況

①入院患者受入

新型コロナウイルス感染症患者対応のため、重点医療機関として専用病床を最大80床（疑い病床30床を含む）整備し、多くの陽性患者を受け入れた。

〔令和3年度 入院状況〕 延人数

(単位：人)

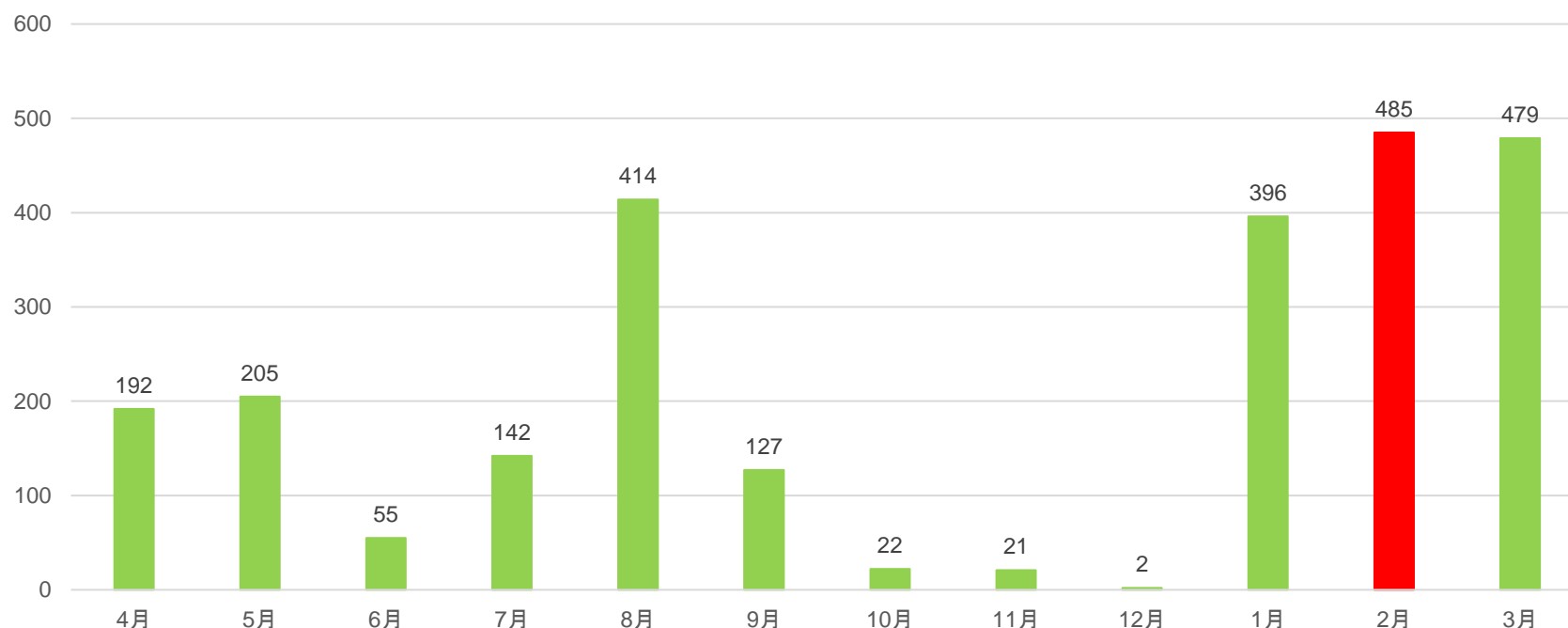


(3) 新型コロナウイルス感染症対応状況

- ②陽性者メディカルチェック・発熱外来・接触者外来
保健所からのPCR検査要請に対応すべく、各種外来を設置し、
多数の検査を実施した。

〔令和3年度 陽性者メディカルチェック・発熱外来・接触者外来〕 実数

(単位：人)



(4) 事業報告の概要

①入院

①病床利用率

(単位：%)

R3年度実績	59.2
R3年度計画	80.0
R2年度実績	66.8

② 1日平均患者数

(単位：人)

R3年度実績	118
R3年度計画	160
R2年度実績	133

③ 1人1日当り患者収益

(単位：円)

R3年度実績	51,573
R3年度計画	46,200
R2年度実績	47,979

②外来

① 1日平均患者数

(単位：人)

R3年度実績	410
R3年度計画	450
R2年度実績	405

② 1人1日当り患者収益

(単位：円)

R3年度実績	12,645
R3年度計画	11,800
R2年度実績	12,333

2. 令和3年度歳入歳出決算の概要

・収益的収入

(単位：千円)

	3年度決算	2年度決算	備考（主な内容等）
入院診療収益	2,228,345	2,339,988	新型コロナ対応 [最大80床確保、延3,818人が入院]
室料差額収益	95,767	110,502	個室料収入
外来診療収益	1,370,340	1,342,217	新型コロナ対応 [延2,540人にPCR検査を実施]
保健予防活動収益	210,465	171,004	新型コロナワクチン接種 人間ドック収入等
その他の医業収益	37,096	45,011	診断書料収入等
医業外収益等	1,771,217	1,343,725	補助金収入等 [病床確保料収入約16億円]
合 計	5,713,230	5,352,447	

2. 令和3年度歳入歳出決算の概要

・収益的支出

(単位：千円)

	3年度決算	2年度決算	備考（主な内容等）
材料費	772,083	813,918	医薬品、診療材料、給食材料費等
給与費	2,573.895	2,551,179	医師、看護師等人件費
委託費	345,599	335,109	清掃、保守、医事業務等
設備関係費	433,553	469,232	器機賃借料、修繕費等 [減価償却費約 3億円]
研究研修費	2,235	981	図書費、旅費交通費等
経費	197,060	181,717	水道光熱費、福利厚生費等
医業外費用等	108,095	78,184	看護師等委託養成費、診療費減免等
合 計	4,432,520	4,430,290	

3. 令和3年度歳入歳出決算の総括

・ 収入支出差引額

(単位：千円)

	3年度決算	2年度決算	備考（主な内容等）
収益的収入	5,713,230	5,352,447	病床確保料約16億円
収益的支出	4,432,520	4,430,290	給与費、医療社会事業費の増加
収入支出差引額	1,280,710	922,157	2年連続黒字決算

(1) 収入では、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、入院患者数の減少の影響で医業収益が減少したが、新型コロナウイルス感染症病床確保事業補助金の獲得により最終的には収入全体では増収となった。

57億1,323万円（前年度比 106.7%）

(2) 支出では、収入と同様に新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少や手術件数の減少で、材料費が減少したものの、賞与支給率の引上げ等の影響による給与費の増加や、人員増による医療社会事業費の増加があったことから、支出全体では微増となった。

44億3,252万円（前年度比 100.05%）

(3) 以上、支出を上回る収入の増加により、収支差引額は、12億8,071万円の黒字決算となった。

〔今後の課題〕

- ・ 令和2年度に引き続き黒字決算となり一定の内部留保を得られたことから、令和6年度から7年度にかけて予定している電子カルテやMRI磁気共鳴画像撮影装置の高額な更新費用に備え、自己資金を確保するとともに、経営の一助とするため資産運用に着手する。
- ・ 病院運営の更なる効率化・合理化を目指し、院内会議のペーパーレス化、会計のキャッシュレス化、稟議のワークフロー化などIT技術導入を加速させる。

4.補助金一覧

(1) 運営費補助金

補助元	新型コロナ以外	新型コロナ関連	備考
国庫	0円	228,398円	コロナ感染症による小学校休業等対応助成金
都道府県	8,589,840円	1,645,605,380円	病床確保料@74,000円
市町村	5,065,000円	2,830,000円	コロナワクチン接種体制整備事業補助金等
その他	7,925,000円	0円	病院群輪番制病院運営補助金等
補助金合計	21,579,840円	1,648,663,778円	

(2) 施設設備補助金

補助元	新型コロナ以外	新型コロナ関連	備考
国庫	0円	0円	
都道府県	6,966,000円	24,200,000円	血液浄化装置等
その他	968,000円	5,000,000円	ネーザルハイフロー等
補助金合計	7,934,000円	29,200,000円	

令和 3 年度事業報告 及び社会福祉施設特別会計 歳入歳出決算



支部乳児院

1. 令和3年度事業報告

(1) 乳児院の特徴

①定員 38人

②特徴

- ・ 小規模グループケア
- ・ 病後児保育事業（デイサービス）
- ・ 子育て短期支援事業（ショートステイ）
- ・ 日曜の家事業
- ・ 子育て支援事業

③職員数 40人

看護師：6人、栄養士：1人、福祉職：18人、事務職：2人、他嘱託等：13人

(2) 事業報告概要 I

①新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 入所予定児への抗原抗体検査を実施した。
- ・ ボランティア受入を中止した。
- ・ 実習生の受入を制限した。
- ・ 保護者とのオンライン面会を実施した。
(来院面会の一時停止)
- ・ 職員の体調管理を徹底した。

②事業

- ・ 里親委託のための事前外泊など期間を短縮して実施した。
※里親とのマッチングを目的に、通常1～2週間外泊を行うところ1～2日に短縮した。
※事前の外出・外泊回数が少ないまま里親委託となるため、委託後の訪問回数を増やす等、児童相談所や関係機関と協働し状況を見ながら実施した。

(3) 事業報告概要Ⅱ

①事務費収入

- ・入所定員 38人

②事業費収入

- ・入所児数

31人（年平均） 年間延入所児数 11,225人

- ・一時保護委託

20人 年間延入所児数 1,368人

- ・被虐待児受入加算 8人

③受託事業収入

- ・病後児保育事業（デイサービス）
- ・子育て短期支援事業（ショートステイ）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため病後児保育事業は中止

2. 令和3年度歳入歳出決算の概要

(1) 収入及び支出

(単位：千円)

	収入	支出	差引
R3年度 決算	377,431	292,840	84,591
R3年度 予算	383,395	303,063	80,332
R2年度 決算	390,045	307,268	82,777

3. 令和3年度歳入歳出決算の総括

(1) 収入では、措置費保護単価の増額により措置費収入増となったが、受託事業の中止により収入減となった。
3億7,743万円（前年度比 96.8%）

(2) 支出では、人件費等の減少により支出減となった。
2億9,284万円（前年度比 95.3%）

以上、収入が支出を上回ったことにより、収支差引額は8,459万円の黒字決算となった。

令和 3 年度事業報告



茨城県
赤十字血液センター

1. 血液センターの特徴

令和4年3月31日現在

- ①施設 : 血液センター（茨城町）
供給出張所（つくば市）
献血ルーム（つくば市・水戸市）
- ②職員数 : 正規職員 112名 常勤嘱託等 59名
- ③車両 : 移動採血車 7台 献血運搬車 15台
その他車両 19台

2. 血液事業

- ・ 血液事業運営は、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」等の関係法令を遵守した。
- ・ 採血事業者及び医薬品販売業者としての責務である血液製剤の安全性及び安定した供給体制を確保した。
- ・ 献血者の保護を行った。
- ・ 関東甲信越ブロック血液センターと同ブロック内の地域血液センターと連携し、円滑な広域需給管理体制を推進した。

3. 令和3年度事業報告の概要

(1) 事業内容

① 献血者の安定的確保

- ・ 新型コロナウイルス感染予防対策として、マスク着用、体温測定、手指消毒のほか、換気や消毒清掃を徹底し、献血会場の安全性を確保した。
- ・ 感染再拡大の都度、中止となった会場の代替会場を確保したうえで、「献血は不要不急なものではなく医療には絶えず必要であること」を広報するとともにSNSを活用し継続的な協力への理解促進を実施した。
- ・ 献血受入計画を達成するため、県・市町村及び献血推進団体等と連携した。

② 血液製剤の安定供給の確保

- ・ 医療機関からの需要に応じて、血小板成分献血及び400mL献血を推進した。
- ・ 医療機関の需要に的確かつ迅速に対応できる365日24時間の供給体制を実施した。
- ・ 非常時の通信基盤強化と受注業務の過誤防止のため、Webによる受発注を推進した。

③献血推進キャンペーン等の実施

	実施時期	名 称
1	令和3年6月	世界献血者デー
2	令和3年6月～3月	学域献血キャンペーン
3	令和3年7月～8月	献血ルームで献血キャンペーン（高校献血未実施校）
4	令和3年7月～9月 令和3年12月～令和4年5月	職域会場キャンペーン（対象：事業所等）
5	令和3年10月～11月 令和4年1月～4月	「茨ひより」コラボキャンペーン
6	令和3年12月～令和4年1月	「ガールズ&パンツァー」コラボキャンペーン
7	令和3年12月	冬季献血キャンペーン（対象：街頭、地域）
8	令和3年12月	クリスマス献血キャンペーン
9	令和4年2月	バレンタイン献血キャンペーン

(2) 採血実績

(単位：本)

採血種別	R 2 年度実績	R 3 年度計画	R 3 年度実績	対前年度比	対計画比
200m L 献血	3,385	2,835	3,081	91.0%	108.7%
400m L 献血	69,151	68,741	70,630	102.1%	102.7%
血漿成分献血	23,068	24,752	25,074	108.7%	101.3%
血小板成分献血	9,872	6,235	6,818	69.1%	109.4%
合 計	105,476	102,563	105,603	100.1%	103.0%

(3) 供給実績

血液製剤供給本数

(単位：200mL換算本数)

製剤別	R 2 年度実績	R 3 年度計画	R 3 年度実績	対前年度比	対計画比
全血製剤	4	0	0	—	—
赤血球製剤	130,075	130,190	132,880	102.2%	102.1%
血漿製剤	33,053	33,250	33,340	100.9%	100.9%
血小板製剤	160,385	161,350	166,005	103.5%	103.5%
合 計	323,517	324,790	332,225	102.7%	102.7%